

子供たちの笑顔のために

県教育庁教育振興部児童生徒安全課スクールカウンセラースーパーバイザー

もり まこと
森 真琴



1 スクールカウンセラーの状況

千葉県では、昨年度の9月から小学校にもスクールカウンセラー（以下SC）が全校配置となった。それにより、現在は小中学校では全校に、県立高校は未配置校にもグループ校のSCが月1回程度勤務しており、全ての公立学校にSCが勤務できるようになった。

SCの勤務は、週1回～月1回と時間数はまだまだ十分ではないが、学校で様々なことを行っている。児童生徒のカウンセリングや保護者の相談、教職員へのコンサルテーションだけでなく、部会や校内委員会などへの参加、広報活動、予防教育、職員研修などが挙げられ、それぞれのSCが学校に合わせた取組をしている。

児童生徒や保護者からの相談内容は、不登校、対人関係のトラブル、いじめ、学習面や進路のこと、自己理解、発達障害、LGBTQ、家族関係、子育てについてなど多岐にわたっている。この数年は、コロナ禍の影響もあり、自傷行為や希死念慮、不適切な養育や児童虐待の相談も増加しており、緊急の対応が必要となることも多い。

また、直接相談室に来室していない児童生徒のことについても、先生方から対応について相談をいただいたり、授業観察をして気になる生徒について話をさせていただいたりなど、間接的な関わりも行っている。

2 校内での連携

こうした相談活動を行う中で、個人面接で

の相談内容に関する守秘義務は守りつつ、児童生徒にとって必要だと思われる情報、その子供の状況や見立て、どのような関わりが必要かなどについて、学校の先生方との連携を大切にしている。子供の表面上の言動だけではなく、その子の背景や、特性、情緒や認知などの発達段階なども考慮に入れながら、先生方と情報を共有し、どのような対応がその子供にとってプラスになるのかを一緒に考えさせていただく。先生方からの情報は非常に貴重であり、お互いに見立てなどを共有しながら話し合い、子供本人への関わり方だけでなく、校内での役割分担や、必要に応じて家族への働きかけをどうするか、関係機関にどのように繋ぐかなどの方針を立てていく。この際に、共通理解ができていること、関わる大人たちが同じ方針に立っていることが子供に安全で安心できる環境を提供することにつながっていると感じている。

そのため、短い勤務時間の中で、先生方とどのように連携が取れるかはSCにとってとても重要である。相談室だけでは見えない子供のいろいろな姿を教えていただくことも非常に有意義であるし、集団の中でこそできる関わりやその子供の力を引き出していく働きかけなど、先生方から学ばせていただくことも多い。

私の勤務校では、生徒指導主任や養護教諭を軸に、連携をとりやすい体制を整えていただいている。週1回の勤務のため、前回の勤務から動きがあったケースなど事前に知って

おいたほうがよい情報がある時は、出勤時や面接の合間など短い時間でも伝えてくださり、学校や先生方の方針を理解しながら相談に入ることができる。また、1日の相談が終わった後に、担任や学年職員など必要な先生と情報交換する時間をできる限りいただくようにしている。

緊急の対応を要する場合には、関係職員や管理職などと急遽のケース会議となることもあり、迅速に集まることができる体制があることも非常にありがたく、校内での連携の大切さを痛感している。

緊急の対応の際には、それぞれの立場から見える子供の状況、見立て、直近に懸念されること、対応の方針や方法、役割分担、保護者への連絡や外部機関の検討などを行い、具体的な動きについても確認する。このような話し合いの中で、先生方の不安や心配、これまでの苦労なども語られるが、それだけでなく、困難な問題の時には見落としがちな、これまでの関わりで子供にとってプラスになっている面について見えてくることもある。

また、関係する職員で共有できることや、担任や学年だけでなく管理職も含めて一致した理解のもとに学校全体で抱えられる状況になることが、子供本人や家族への対応にも安定感をもたらすことも多い。したがって、校内でのケース会議は、短時間であったり急遽の会議となったりしたとしても、タイミングを捉えて行えることは有意義であると思う。

3 最近の動向

徐々に通常の生活に戻ってきているが、この数年、コロナ禍の影響を色濃く生じている。

休校明けの時期は、分散登校であったこともあり、それまで登校できなかった児童生徒が登校することもあったが、その後不登校は

増加している。学校生活の中で、コミュニケーションを取れる場面が制限される生活が長く続いている。その中で、対人関係がそこまで得意ではない子供たちが、友人関係を築きにくく、通常の生活の中であれば回復できたであろう傷つきを修復できずに登校困難となるケースも増加した。また、前述のように、希死念慮や自傷行為も増加しており、学校では難しい対応を迫られることも増えている。

このような状況から、より丁寧な個に応じた関わりが求められ、学校現場の負担も大きくなっている。そのような状況の中、子供たちを支えていくためにはチームとしての関わりが重要である。

SCは面接の中で、子供たちの不安や傷つきを受け止め、その子自身が本来もっている力を発揮できるように個別の相談を行っていく。そして、それだけではなく、面接に訪れる保護者や、校内の先生方、また関係機関など子供を取り巻く方たちと連携を取って、子供たちが回復し、日々の生活を気持ちよく送ることができるような環境を提供することや、予防的な関わりに目を向けることもますます大切だと感じている。

4 おわりに

個別の相談活動が主になりがちなSCは、学校全体の子供たちに関わることはなかなか難しいが、全ての子供たちが、いろいろな悩みをもちながらも、それを自分の力で抱え、必要に応じて周囲の助けを求めつつ、乗り越えていくことができるようになること、一人一人がその子らしい毎日を笑顔で過ごせることを願っている。そのためにも、今後もSCとしての資質や専門性を高め、学校の中で有用な活動ができるよう努力を重ねていきたい。